

更衣

首夏

夏夜

端午

納涼

晚夏

花櫛

蓮

郭公

螢

蟬

扇

秋

立秋

早秋

七夕

秋分

枯晚

秋分

八月十五夜

九月九日

九月九日

女郎花

萩

蘭

槿

菊

紅葉

雁

雁

虫

麻

病

勢

持衣

初冬

冬夜

歲暮

炉火

霜

雪

氷

教

佛名

雜

風

雲

曉

松竹

様

管絃

文詞

酒

山

水

水

禁中

古京

故宮

仙家

道士

田家

隣家

山寺

佛事

僧

閑居

晚

夕

祝	遊	自	仍
志	女	執	振
無	老	將	度
常	人	軍	申
白	交	刺	帝
	友	史	王
	懷	詠	自
	舊	史	定
	四	王	親
	函	昭	王
	懷	君	自
			孫
			丞
			相
			女
			賀

和漢詠孫目錄終

春 五春

逐吹潛開不待芳菲之候
 迎春乃愛

將希雨露之恩
 池凍東顧風度解寒梅小面雪封是

柳之氣力能先初冰有波文冰盡開
 今日不知誰計春風是水一時來

見よこしやんやるまはら〜
まや〜
素性
法作

春思

花下忘歸因羨系
芳草菲紅錦地
遊絲縹亂碧羅天
飲酒家〜花更〜
莫之後願上陽春
山櫻後野桃日
曝紅錦之幅門柳後
春風統鞠卷之線
白
劉
白
劉
白
劉

著野展敷紅錦
緒高天遊縵碧羅
後林中花發時
開落天外遊絲
或有量
笙歌夜月家
思待酒春風
更之情
春夜
白
野
相
公
菅
高
赤
人
忠
岑

けりしをたれをいふはあやうしゆんのもれ
つらうとくをいふれあやうとくをいふ

五日 付若菜

倚松樹以摩腰習風氣之融祀也 和 菅

菜尾を咬口即字味之克調

倚松根以摩徧千年之習酒年折梅 敬 尊

花と挿頭二月之雪落夜

福のひりしはあやうしゆんのもれあやうとくをいふ

ねのいほはあやうしゆんのもれあやうとくをいふ

ちと習まてしゆんのもれあやうとくをいふ

若菜

野中若菜世事推之道公爐下和養 菅

俗人属之菜指

あやうしゆんのもれあやうとくをいふ

らあやうしゆんのもれあやうとくをいふ

良詩山

みらるるをうらむるをふりてふりてふりてふりて
てふりてふりてふりてふりてふりてふりてふりて
てふりてふりてふりてふりてふりてふりてふりて

暮春

拂水柳花子可悲滿樓言言友之夢
但翅沙鷗潮為晚乱絲登馬草深春
人之文廿四源惜年不常去海是定
到伯若知今日始忘言世更又云何
風與源 管 稜 元

三月盡

留春不駐去歸人寂寞然風兮不
乞風起花蕭索
竹院君閑消永日花亭我碎送殘春
惆悵春收留不得紫藤山下漸黃昏
送春不用勅舟車唯別沙汀与雁
美仗韶光知我意今看旅者在谁家
同 菅 日 日 白

月詠二

苗春不用流城園花居海風鳥入雲
 今春乃... 船恒
 日之貴恒船敬

因三月

今年因在春三月到者金陵一月花
 歸船... 源

舞蝶... 源
 花梅... 伊
 芳伊

賞

誰家碧樹... 謝
 觀謝島賈

咽霧山蒼啼鳥少穿沙草葉綠
 卷頭五酒為呼水水面無聲風洗池
 當新清了來花下草色拘留唯水色
 感同歎於相求離鴻去厚之危春情
 乞雲氣白終濕新吟魚躍之伴啼啼
 燕作之神暫收信縹紅於喬柏園郊
 之簪頰動於開開於新花

新踏水今家宿雲霧葉為後屬春堂
 西極月落花間雪中殿燈抄竹裏音
 中素性兼女中發
 霞

霞光曙後設於火草色晴素嫩似煙
 白

良言

白河房栢浮洞水黃梢新柳出披牆
梅花帶雪苑琴上柳色和煙入海中
漸覺臘香新對裏徐綻是風未展先
浮流柳色看輕香踏栢花落已頻
五嶺蒼々雪付來但憐大庾万株梅
誰言春色逐東到為暖南枝花始開
香依縷巾陶門柳白玉裝成庾君梅

白

章

菅

菅

想

紅梅
梅含鵲舌無紅氣江弄瓊花帶碧文
淡紅嬋娟仙方之雪媚色濃香芬郁
奴疆之煙穠蕊

安倍

廣石

人

躬

恒

正遠

月採

良言上

有_あ色_{いろ}易_{やす}分_{ぶん} 疎_そ君_{きみ}庭_{にわ}之_の情_{なさけ} 秋_{あき}夕_{ゆふ}陽_{ひかり}中_{なか} 書玉
仙_{せん}四_し風_{かぜ}生_な空_{そら} 散_{ちり}言_{ことば}燈_{あかり}火_ひ暖_{ぬく}未_ま揚_{あがり}燈_{あかり} 紀
三_{さん}三_{さん}三_{さん} 友
つ後_{のち} 院
ほ 院

柳_{やなぎ} 白
林_{はやし}寫_{うつ}行_ゆ交_{まじ}冷_{ひや}筆_{ふで}拍_{はく}牆_{かべ}柳_{やなぎ}誰_{たれ}家_{いえ}暖_{ぬく}鞠_{まり}庭_{にわ}
冰_{こおり}欲_ほ揮_{ふる}他_{ほか}騎_か馬_{うま}未_ま多_{おほ}庭_{にわ}上_{のぼ}樓_{たか}人_{ひと} 白

巫_{まじ}女_{むすめ}廟_{やしろ}花_{はな}紅_{べに}似_に粉_{こな}眼_{まなこ}君_{きみ}村_{むら}柳_{やなぎ}翠_{あざ}於_に眉_{まゆ} 口
誠_{まこと}知_し老_{おい}去_い風_{かぜ}情_{なさけ}少_{すく}見_み此_{こゝ}争_あ云_い一_{ひと}句_く詩_し 口
大_{おほ}庭_{にわ}庭_{にわ}梅_{うめ}早_{はや}落_{おち}泥_{どろ}同_{おな}粉_{こな}粘_ね匡_{まが}庭_{にわ}山_{やま} 紀
之_の香_{かほ}味_{あじ}未_ま開_{ひら}用_{もち}道_{みち}庭_{にわ}庭_{にわ} 紀
雲_{くも}華_{はな}似_に鏡_{かがみ}枝_{えだ}柔_な日_ひ春_{はる}媚_め黃_{わう}珠_{しゆ}嫩_な柳_{やなぎ}風_{かぜ} 達音
愁_{しみ}宅_{たく}庭_{にわ}晴_は庭_{にわ}月_{つき}暗_{くら}陸_{りく}池_{いけ}逐_お日_ひ水_{みづ}燈_{あかり}深_{ふか} 前中
漂_う心_{こゝろ}月_{つき}流_{なが}交_{まじ}枝_{えだ}樹_き岸_{ぎし}口_{くち}風_{かぜ}來_き深_{ふか}系_{けい}嶺_{りやう} 首

少のまらと乃のこまはこゝろは
ころはりのそりあさたふりす那

躑躅

晩葉尚用紅躑躅秋房初結白芙蓉
夜遊人欲為來把寒食家忽折竹筍
おののひくちとまきつてんとうあまのいそべーやりえせけうく
おのいけんごもこのやれいさうく
いさうあまこいさうのそ

飲冬

張着帷萱天有念歎之悵從言志風
えちやくいことうとえありこちんさうあまてをうふがーおんのさふ
張着帷萱天有念歎之悵從言志風

書名五卷相収拾証紙無文未なめ
かろくくねるこ川よりけんさうく
まやくくらんるさされさ那
おののひくちとまきつてんとうあまのいそべーやりえせけうく
おのいけんごもこのやれいさうく

藤

懐中忘恩三月盡紫藤花為馬開
紫藤花底紗花色翠竹輝中書名未
定身御奪朱衣色忘恩花心忘恩卷

忠云

白

順

平

夏

清

慎云

盛

白

田子乃... 夕... 人... 夕... 那

夏 更夜

背壁... 家人... 招... 色... 重... 之

看夏

瓊... 竹... 葉... 經... 春... 熟... 階... 底... 蕭... 蕩... 入... 夏... 開... 白... 昔... 生... 石... 面... 將... 衣... 短... 荷... 水... 沁... 心... 小... 蓋... 珠... 順... 實... 物... 部... 白

夏夜

風... 吹... 枯... 木... 晴... 天... 雨... 月... 照... 平... 沙... 夏... 夜... 白... 風... 生... 竹... 夜... 之... 間... 月... 照... 松... 時... 卷... 上... 初... 紀... 夜... 之... 閑... 處... 後... 深... 更... 軒... 白... 月... 明... 初... 紀... 續

池冷水無三伏夏初為風有一旁秋

すくしやとあひくしんさうらふまは
あけのこもまはふとさるのりなり
あつたあつたあつたあつたあつた
むすふつらつらつらつらつらつら
ねしけいはいさしれしつとむしひあふく
は 勢 中 三 貫

映夏

竹亭冷合柳夏水檻風涼不待秋
あつたあつたあつたあつたあつた
は 勢 中

あつたあつたあつたあつたあつた
は 勢 中

花橋

盧橋子低山雨重柳葉秋水風涼
ろ 橋 子 低 山 雨 重 柳 葉 秋 水 風 涼
白

枝葉全於春返後花葉紫霽觀風程

は 勢 中 三 貫
あつたあつたあつたあつたあつた
は 勢 中

蓮

風行老葉蕭條綠水芙蓉殘花寂寥紅
 葉展新蕊高初月花開香散入薰風
 燼團翠扇清風曉色流紅衣白藕枯
 岸竹枝低處鳥宿潭荷葉初氣魚遊
 綠何更覓吳山曲便是吾君座下花
 徑為題目併為眼知汝花中極名根
 良憲為紀許
 德

郭云

一聲山鳥曉中飛
 潭許

見忠
 螢火亂飛秋已近
 星早沒夜初長

螢

螢火亂飛秋已近
 星早沒夜初長
 白

薰風在暗堂知夜揚柳風高宿是姑
咽之仍在誰追月光於屋上皓々不

紀

消豈積雪片於床頭

山經卷裏欵過岫海賦篇中似宿流

直

火乃

赤

人

忠

蟬

遷々兮春日王統暖兮溫泉溢嬾々
兮秋風山蟬鳴兮宮樹紅

子峯馬浴含梅雨二月蟬聲送夏林

高下綠葢秦苑靜蟬鳴黃葉漢宮秋

今年夏例腸先飢不覺蟬悲亦意悲

歲去來牙德不變是之枯枝逆為空

たしんふれこひのこころきこは

うらみせらんのこころまじゆふ

あきばつらんよ人もさうりぬあきさうく
あきさうくしりしりあきさうくすしり

廟

光重

盛夏不消雪終年無雪風引秋生年

白

裡義月入懐中

不期夜漏初分後唯飲枯風味あき

言菅

あきれ川河影さうきさきき那り

中勢

らあき乃河あきさきあき風さうりさうく

補え

さうりさうりさうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうりさうりさうり

中勢

秋 立枯

蕭颯涼風思衰葉誰衰計云一時秋

白

鷓鴣散回秋色少野常遠又晚聲微

保胤

あきさきわしあきあきさうりさうりさうり

凡乃ととあきあきさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうりさうりさうりさうり

あきさのほさうりさうりさうりさうり

敏行能定

早秋

但喜暑随三伏去不知秋意二色来
槐花雨湿新秋地相兼风凉欲夜天
堂系别凉衣尚重晚凉潜到算先知
七夕

忆得少年长乞巧竹竿头上彩丝多
二星遥在未叙别绪依之恨又夜
七夕

将明频转凉风飒飒之奇

露湿别凉珠空落云气簇松管未成
风送昨夜声凉然露及明朝凉不禁
去衣虫浪雁意湿初燭漫流月欲消
词玩微波惟且遣么期片月多存嫌
七夕

そくくやうりなれぬ人乃花とて
ほのふんをふあれたのゆめく
之貫

秋夜

秋夜長夜長を眠天不明然と抄燭
宵壁影蕭々暗雨打窓聲
白

遅く鐘漏物長夜秋々星河多曜天
燕子楼中霜月長枯床只為一人長
同 同
蔓草病深人定後終宵や月明か

菡萏洲裡孤舟夢松柳官頭百里公
あしなれらり乃おのそくくお乃
ひのまきまこつこくくあけり
秦旬之一千餘里涼く水補漢家之
三十六宮沈く粉飾
織得機中已耕相思之字榜衣砧上
依依怨別之聲
日

三五夜中新月色 二千里外故人心 白

嵩山表裡子重言 洛水高僧友 顯珠

十二廻中無勝於 此夕之好千萬里 總紀

外皆爭於吾家之 光

碧浪金波三五初 秋風竹氣似空虛 茂淳

自疑行葉遊 窮子人管 蒼花已盈餘 日

峯白在迷 相上 橋深融可 壽藤中魚 日

瑤池便是尋常 号此夜清明 玉不如

金膏一滴 秋風落玉匣 三更冷漢雲

楊花地 歸唐帝 思李夫人 去漢里情

あれを... 月... 順

月

誰人際外久征 戎何更庭前 新別離

秋水漲來 船去遠 夜中收盡 月行遲

日 白

順

不碎愁中幸在得麻園山月正養
 五山不每行年書合浦魚速高日珠
 欲和豐炭種於否甚素花序轉發何
 鄉淚教仍征戎客棹歌一曲約漁翁
 月年干りくさむいさくめあらしうし
 畫 聿 恒 躬 丸 仲 胤 保 畫 聿 平 理 白

九月九日

竹菊

燕知社日醉原去菊為重陽冒雨開
 採故葉於漢武則赤萸挿之人之秋
 為高強於魏文亦英花助彭祖之術
 先三邊兮吹其花如曉星之猶河漢
 十台兮為彩疑秋香之迴洛川
 谷水洗花汲下流而得上壽者三十
 亂保 日 響 紀

竹家地脉和味冷日精白驻身顔若
又百箇歲

いづちやふれましくろしほむふり

菊

霜蓬老後三分白
病菊新花一半黄
不气花中偏宅菊
此花開後更甘花
嵐陰欲寄松柏之
後凋秋意早移

船中

白

元 結 紀 總

物之蘭之先敗

鄰縣村園皆潤屋陶家
兒子不為堂
蘭苑自慙為俗骨
權難不信有長生
紫莖苑嵐提紫後
蓬葉潤月照
苑中

善 想 保 胤 菅 言

躬 恒

九月畫

縦以崎函為固雖苗蕭瑟於中徧縱

令孟賣白追何庭爽教古風境

頭目縱隨徐客乞以枯樹與古意難

又穿掛響白約象洞海鏡舟不系於

ふさし一うれえれまははくおまも

うれ乃まま一とるあま一と

くらくゆあれたのこまんとくものな

盡無 順

女郎苑

花色如燕業信呼為女郎同名戲歌

其借志忍惡表難首似霜

をまのゆへ一ゆはうらみまきにやうとん

あまをくくゆれらるまま一とま

とまをく一アうんはななくまひとん

とまをく一乃あまをま一とん

あれた乃まろ一とまをくあれたをま

丸人 慎性昭遍 順

菊裁

多見戴花悦月倩先时
自昔闲寂家僮倦春树
闲思看汝花红日正是
曾非种交思元亮为是
花时倍世高寄

恒躬胤保

菅

紅葉 竹葉

不堪紅葉苦若地又是
蒼頰頰林寒有葉碧瑠
洞中清淺瑠璃水庭上
外抱独醒石洞色能波
合力錦江寄

白

正清

落葉

三秋而空漏正长空階面滴美里而

御園行在落葉意深

杖庭不拂接老杖困踏梧相莫葉行

城柳玄槐没搖落秋悲不到貴人心

梧楸於中一勢之雨空濛鶴鶴背上

數片之石終殘

白 順原

樵獲佳返杖穿朱實後之衣隱逸優

如相

遊履浩葛稚仙之樂

隨嵐落紫含蕭瑟澗石苑泉弄雅琴

順

逐夜光多岳苑月每朝琴少溪林風

あそびはあそびふりあそびふりあそび

あそびはあそびふりあそびふりあそび

あそびはあそびふりあそびふりあそび

人九貫之 日

月詠止

鴈 竹 帰 宿

万里人南去 三春雁北飞 不知何岁

月得与汝同归

潯阳江色 潮添波影 昆虫秋声 雁引来

四只采山 移画色 两三行 雁悲云 枯

虚弓 那能 束地 疑 於 上 弦 之 月 總 奈

箭易 迷 程 成 浩 於 下 流 之 水 急

鴈 飛 悲 為 書 書 紙 筆 將 霜 林 破 錦 機

碧玉 梳 筆 斜 立 柱 書 若 色 紙 教 紅 書

雲 衣 危 叙 羈 中 贈 風 櫓 滿 湘 波 上 舟

あはれ 風 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

帰 宿

山腰 蹄 雁 斜 素 帶 水 面 新 虹 染 展 中

うたれ 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

月 録 上

都 帝 伊 勢

菅 三 品 後 中 書 友 則

可憐九月初三夜露似真珠月似弓
 露滴芙蓉香玉白風銜紅葉雅琴清
 瑟瑟一林秋意多
 瑟瑟一林秋意多

霧

竹露曉乾湖鏡月
 秋風暖送道
 江上
 離愁夕霧埋人枕
 行色
 如雪
 白
 相公
 深
 養父

八月九月正長夜
 子夜
 萬靜
 止時
 白
 友則

擣衣

小斗星前
 橫
 鴈
 南樓
 月下
 擣
 衣
 擣
 衣
 晚
 共
 團
 月
 冷
 裁
 將
 秋
 寄
 塞
 中
 衣
 裁
 出
 還
 迷
 長
 短
 製
 色
 愁
 定
 不
 看
 腰
 圍
 風
 底
 香
 苑
 雙
 袖
 卷
 月
 花
 杆
 怨
 友
 眉
 低
 直
 幹
 篤
 日
 白

年々別思為林宿夜々幽亭為曉鷄
 三三 貫
 三三 貫
 三三 貫

冬 神冬

十月江南天氣好可憐冬氣似春花
 白
 谁家思婦林梢昂月苦風冷砧杵悲
 白
 四時春處三分減萬物殘花過半凋
 白
 床上卷收青竹葉匣中團扇白絳衣
 三三 菅 白

秋夕月十
 三三 貫

冬夜

一盞燈燒盡外夜數盞溫耐香中春
 白
 身先自白燈前盡客思唯從枕上生
 三三 教 尊
 三三 貫

歲暮

寒流帶月沈如鏡夕吹和氣利似刀
 白

風雲易白人為當歲月難逢志庶登上道春
此句と一乃行くはあつたれまはくくん貫
みふうけさくくまあつたれまはくくん貫

爐火

黃醪綠醕逢冬熟絳帳紅爐逐夜開
看正野馬聽其言猶疑風光被火逐
此火應續花樹取為來終夜有春情
多時縱碎為志下近日那歌獸炭過
白
菅
同

うはと出れさくさくかきくしとたふりも
くみくまりくはりそりくしとたふりも
業
平

霜

三秋岸雪花初白一夜林霜葉盡紅
萬物枯朽能壞色四時冬日玄凋年
困老憂壽或添孤婦之砧上山深感
動先後以皓之髮色
君子夜深靜不驚志寂年晚髮相驚
温
麿
白
紀
聖
菅

聲身こゝろ已ま然ま花亭はな鶴つる空あか初はつ雪ゆき高履人たか日
晨あさ積つみ瓦わ海うみ鴛うづ鴦や雲うみ色いろ秋あき簾すだ花はな表あは鶴つる香か荷か
言ことば

曉入梁王あき之苑の雪ゆき滿み群山ぐん夜よ堂だう庾公こ
報謝

之樓月明千里
銀河沙漲三子界梅嶺花開一萬株
君似鶴毛飛散乱人披鶴氅立徘徊
日白

或ある逐お風かぜ不な通と此こ振ふ群ぐん鶴つる之の毛け亦また高たか晴は日ひ
於お殘のこ額がく綴つ衣い抗か之の腋わき
翅はね似に得え群ぐん栖す浦うら鶴つる公こう慈あま系けい具ぐ掉たう舟ふね人ひと
立た於お庭にわ上の頭かぶ為な鶴つる坐ま在に爐いろ色いろ多おほ不な慈あま
班はん女にょ園えん中ちゆう秋あき扇あふ色いろ楚そ王おう卷ま上の夜よ琴きん聲こゑ
之の言ことば
御製
村上
教尊
管
是則

良言一

香火一爐燈一盞
白旣夜禮佛名經
香自祿心
不用火
花開合掌
不因春
あうとぬ乃年色くらねるははは多うとけふ
ほもものうらなをらるやうしぬる森
かきあれたつり身につるりやうし月
さうりやうしやうしやうしやうし
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

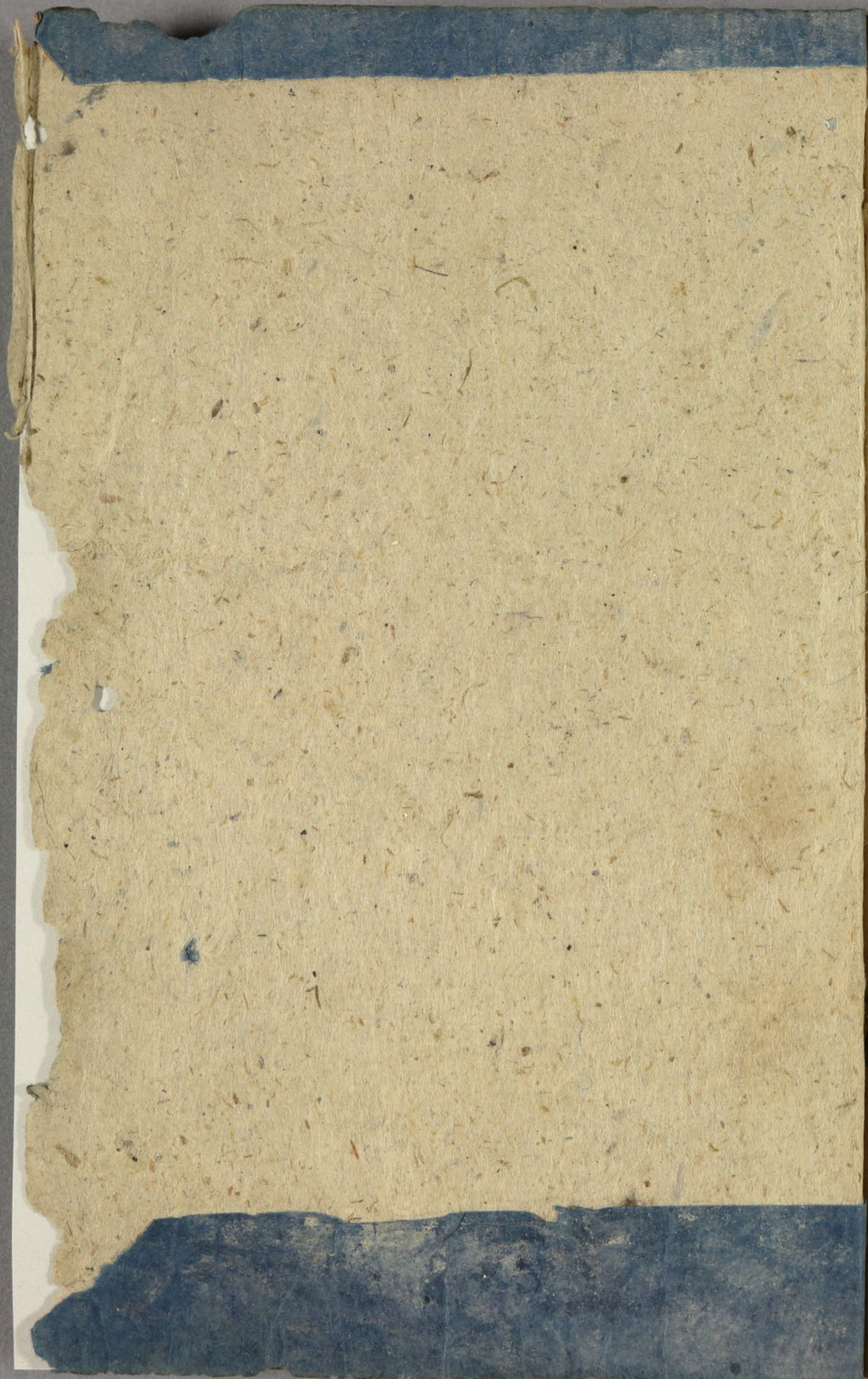
之貫 同盛無 白

和漢胡俗集上

半反

正赤

Handwritten notes and a red seal at the bottom left of the page.



卷一

目錄

五
三
四
五
六



